



浅野富男議員

Q この地で生き続けることができる地域づくりについて

A 地域の資源を活かし、さらに自助や互助を生み出す地域づくりを進める

問 現在の企業に頼る経済のあり方についてどう思うか伺いたい。

町長 企業が果たしている役割というのは非常に多大なものがある。企業が持つエネルギーとか、あるいは企業が果たすべき社会性とか、そういうものを発揮してもらったためにも企業に対

する行政の協力・支援は必要。ただし、単純に企業が来れば地域が活性化し発展するわけではない。県内でも、せっかく進出した企業が不況により撤退し、地域が大変な状況になった例がある。そういう面を両方見

ていく必要がある。

問 現在、町内の建設業で

は仕事がなくて大変だということを知っている。他自治体では住宅改修を地元業者者に頼んだ場合、補助金を出すなどの取り組みをしているが、本町ではどうか。

町長 現在そのような制度はないが、高齢者のための住宅の改修とか、あるいは浄化槽を合併浄化槽に変えるとか、既存の助成制度がある。ぜひ、町内の業者の皆さんに活用願いたい。

問 橋梁とか下水道、公共施設は経年変化で改修が必要となってくる。計画的な財政運営、あるいは地域経済の仕事おこしの面でも改修が必要では。

町長 今議会に一般会計補正予算として道路の補修や施設の修繕など町内会等からの要望を踏まえ、国の緊急経済対策を財源にし、提案をしている。

問 地域活性化のため、地域資源を生かした仕事おこしが必要である。これまでの取り組みについて伺う。

町長 町内には数多くの有

効・有用な資源があり、その活用を進めてきた。例えばくみ浪漫大地の恵み館での国見の粘土を使った焼き物などがある。今後とも町民の皆さんにこの町の資源をもう一度見直して意見や発想、さらに、協力をいただきながら進めていきたい。

問 地域で生活を続けるためには集落の維持が必要だが、長期展望に立った地域づくりについて伺う。

町長 町民、行政、地域が一体となって進めなければならぬ。集落を維持するためには、まず自分が自分のことをまずやるという自助、そして、お互いに助け合うという互助、さらに共に助け合う互助が必要。行政が果たすのは共助の部分であるが、今後、自助や互助の生み出す土壌をつくっていくことも行政の重要な

役割の一つであると考えている。

問 高齢化や過疎化に伴い地域の伝統行事などを継続していくことが少しずつ困難になっていくと思うが。

町長 例えば内谷の太々神楽、塚野目・徳江の太鼓への助成など地域の文化や行事などに支援をする中で伝統芸能が継承されたり、あるいは地域の繋がりが広がりをみせたりする。町が少しお手伝いをすればできることがあると思う。今後とも地域づくりについて工夫を凝らして取り組みをしてまいりたい。



内谷春日神社の太々神楽